

RED HAT ENTERPRISE LINUX 7.5 の新機能

技術概要

対象読者

- ・アーキテクト
- ・システム管理者
- ・開発者

新機能の分野

- ・セキュリティとコンプライアンス
- ・パフォーマンスと効率性
- ・プラットフォームの管理性
- ・安定性と信頼性
- ・マルチプラットフォーム・サポート
- ・アプリケーション・エクスペリエンス

はじめに

企業では、自社のビジネスニーズをサポートするために多数のクラウド、仮想化、ペアメタル・アーキテクチャを採用していると同時に、ハイブリッド IT 環境の管理にまつわる複雑性、コスト、およびスキル要件の低減を試みています。これは、既存のインフラストラクチャやアプリケーションに対する投資から引き続き利益を得ながらも、将来へ向けた投資を安全に行いたいと考えているためです。

Red Hat® Enterprise Linux® は、アプリケーションやインフラストラクチャに関して効果的な意思決定を行うための制御性、自信、および自由を企業にもたらします。サブスクリプションが継続的に提供する価値を通じて、企業は継続的なセキュリティを実現できるとともに、ソフトウェア、ハードウェア、およびクラウドプロバイダーの広範なエコシステムを利用できます。さらに、各メジャーバージョンに 10 年以上のサポートが提供されるほか、マイナーバージョンを利用して標準化を行う選択肢もあり、アプリケーションの互換性確保のための取り組みも行われています。

Red Hat Enterprise Linux 7.5 は、引き続き Red Hat によるお客様へのコミットメントを体現するリースとなっています。本リリースでは、セキュリティとコンプライアンス機能の向上、大規模環境におけるユーザビリティ、オンプレミスの Windows インフラストラクチャおよび Microsoft Azure との継続的インテグレーション、ストレージコスト制御に関する新機能が提供されるほか、Linux の初級者にも専門家にも、また Microsoft Windows 管理者にとっても管理しやすいプラットフォームを実現するための継続的な投資が行われています。

アーキテクト向け機能: Red Hat Enterprise Linux 7.5 では、相互運用性の向上や、オンプレミスおよびクラウド環境におけるストレージ効率の向上が実現しています。また、マルチプラットフォームをサポートしており、ネットワーク負荷の高いアプリケーションや、スケーラブルなデータリポジトリの構築が可能です。物理、仮想、クラウド環境のいずれにおいても優れたパフォーマンスを発揮する、一度ビルドすれば頻繁にデプロイ可能なソリューションを構築することもできます。

システム管理者向け機能: Red Hat Enterprise Linux 7.5 の新機能には、使いやすい Web インタフェースで高度なトラブルシューティングを実行するための機能、大規模環境やコンテナ内でセキュリティとコンプライアンス遵守を単純化するための機能、オンプレミス環境とクラウド環境におけるストレージのコスト効率の向上、Microsoft 環境との相互運用性の強化、安定性と信頼性の向上、およびマルチプラットフォーム・サポートなどが含まれます。

開発者向け機能: Red Hat Enterprise Linux 7.5 は、オペレーティングシステムとしての基本機能以外にも、充実したアプリケーション・インフラストラクチャやビルトイン機能を提供することで、セキュリティ保護、ID 管理、リソース割り当て、セルフサービスによる管理、およびパフォーマンス最適化を支援します。

機能と改善点

以下のセクションでは、新機能と改善点に関する詳細情報を、セキュリティとコンプライアンス、パフォーマンスと効率性、プラットフォームの管理などの観点から説明します。

セキュリティとコンプライアンス

ハイブリッド IT 環境が拡大と進化を続けるなか、セキュリティも効率化し、スケールし、相互運用性を支えることにより、リスクを緩和しながらビジネスニーズに応え続ける必要があります。Red Hat Enterprise Linux 7.5 が提供するビルトインのセキュリティ制御機構によって、自社インフラストラクチャをパブリッククラウドに自由に拡張できます。より成熟したワーク LOAD をコンテナ内に構築、設計、Windows インフラストラクチャと連携、デプロイできるようになりました。これには以下が含まれます。



[@redhatjapan](http://facebook.com/redhatjapan)

linkedin.com/company/red-hat

大規模環境におけるコンプライアンスおよびセキュリティ設定のデプロイがより容易に：Red Hat Enterprise Linux with Red Hat Ansible[®] Automation に OpenSCAP が統合され、スキャンから直接 Ansible Playbook が生成されます。生成された Playbook を Ansible Automation で使用することにより、対策措置を企業環境全体に、迅速かつ一貫した方法で適用できます。

Microsoft ソリューションとの統合強化により、ユーザビリティとセキュリティ機能が向上：これには、Microsoft Azure 内および Azure 宛てのデータ転送におけるセキュリティ強化、Windows Server の管理と通信の効率化、および複雑な Microsoft Active Directory アーキテクチャとの統合におけるパフォーマンスの向上などが含まれます。

- Samba スイート内にデフォルトとして SMB3 プロトコルが追加され、Red Hat Enterprise Linux と Microsoft Windows Server 間の通信が向上
- SMBv2 と SMBv3 の Windows 分散ファイルシステム (DFS) サポートによって Windows ファイルシステムの管理が最適化されたことで、Windows システム管理者は、複数の SMB ファイルシステムを 1 つの仮想ファイルシステムに統合可能
- CIFS 共有のための SMB3 プロトコルの暗号化サポートにより、システム管理者やクラウド管理者が Microsoft Azure ファイルストレージ共有に (オンプレミス環境からでも、異なる Azure リージョンからでも) 接続できるため、データ盗用のリスクが低減
- 複雑な Microsoft Active Directory の構成において数万件のユーザー登録を処理する場合の Red Hat Enterprise Linux IdM サーバーのパフォーマンスが向上

コンテナのセキュリティが向上：これには、ビルト時のプロアクティブなセキュリティとコンプライアンス設定、きめ細やかなセキュリティ制御機能、およびホスト層のアクセス制御などが含まれます。

- セキュリティとコンプライアンス設定のプロアクティブな統合：Atomic Scan、OpenSCAP、SCAP Security Guide を統合することにより、PCI-DSS や DISA STIG をビルト時にコンテナに組み込み可能
- サードパーティ製コンテナのセキュリティ向上：Red Hat Container Catalog 経由で提供されるコンテナなどで systemd 統合が必要な場合、SELinux に拡張されたきめ細かな保護をコントロールグループ上で使用可能
- コンテナの root ユーザーをホスト層に対する意図しないアクセスから除外することにより、コンテナホストのセキュリティを強化

クラウドおよびオンプレミス環境の機密データを保護：データボリュームの自動復号をサポートする、Network-Bound Disk Encryption (NBDE) のセキュリティが強化されています。Precision Time Protocol (PTP) と Network Time Protocol (NTP) のボンディング・インターフェースでのフェイルオーバーを追加することで、正確なタイムスタンプ付与と同期を必要とするコンプライアンス機能が向上しました。

パフォーマンスと効率性

既存の IT 投資を拡大したいと考える企業は、リソースの拡大とコスト削減を両立するため、ストレージの最適化に取り組んでいます。Red Hat Enterprise Linux 7.5 の新機能である Virtual Data Optimizer (VDO) は、クラウドおよびオンプレミス環境におけるデータのコストを最大で 83% 削減できるよう設計されています。オンライン重複排除と圧縮により、VDO はデータの冗長性を排除し、新規および既存ストレージの実質的なキャパシティを最大 6 倍に増やします。

プラットフォームの管理性

既存スキルセットの再利用またはそれができないことは、IT 投資の最適化や新テクノロジーの導入を検討する組織が直面する課題の 1 つです。Red Hat Enterprise Linux 7.5 は、新任の Linux 管理者から Windows ユーザー、高度なトラブルシューティングを実行する専門家、そしてセルフサービス機能を必要とするもののコマンドラインまでは必要としない開発者まで、幅広いユーザーにとって使用方法を習得しやすいプラットフォームとなっています。

技術概要 Red Hat Enterprise Linux 7.5 の新機能

使いやすい Web インタフェース (Cockpit 管理コンソール):個々のシステムを管理することができますほか、ユースケースがさらに増えています。ネットワークとストレージの管理、特に Virtual Data Optimizer (VDO) のサポートが追加されました。

ブート可能なスナップショットの作成を管理:アップグレード・オプションを評価する際に安全かつ高速なリカバリーとロールバックが可能になります。

安定性と信頼性

Red Hat High Availability Add-On または Red Hat Enterprise Linux for SAP® Solutions によりパブリッククラウド上で Pacemaker を使用することが可能です。これにより、Amazon Web Services や Microsoft Azure 上で実行されるエンタープライズ・アプリケーションの高可用性をサポートします。

マルチプラットフォーム・サポート

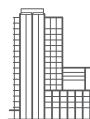
单一ホスト仮想化や、System Z アーキテクチャ内におけるコンテナのサポートなど、新しいテクノロジーが使用できます。

アプリケーション・エクスペリエンス

Buildah ユーティリティがテクノロジー・プレビューとしての提供を終え、7.5 ではフルサポート対象となりました。Docker デーモンが実行されていなくても、Buildah を利用して Linux コンテナイメージの作成と修正を行えます。これは、Red Hat Enterprise Linux と Red Hat Enterprise Linux Atomic Host の両方で利用可能です。

まとめ

Red Hat Enterprise Linux 7.5 と Red Hat Enterprise Linux Atomic Host の詳細については、[Red Hat Enterprise Linux の製品ページ](#)、[Red Hat カスタマーポータル](#)上のリリースノート、または[Red Hat Enterprise Linux ブログ](#)をご覧になるか、[Red Hat の営業担当者](#)までご連絡ください。



RED HAT について

オープンソースソリューションのプロバイダーとして世界をリードする Red Hat は、コミュニティとの協業により高い信頼性と性能を備えるクラウド、Linux、ミドルウェア、ストレージおよび仮想化テクノロジーを提供、さらにサポート、トレーニング、コンサルティングサービスも提供しています。Red Hat は、お客様、パートナーおよびオープンソースコミュニティのグローバルネットワークの中核として、成長のためにリソースを解放し、ITの将来に向けた革新的なテクノロジーの創出を支援しています。

アジア太平洋 +65 6490 4200	インドネシア 001 803 440224	ニュージーランド 0800 450 503	ベトナム 800 862 6691
オーストラリア 1800 733 428	日本 03 5798 8510	フィリピン 800 1441 0229	中国 800 810 2100
ブルネイ / カンボジア 800 862 6691	韓国 080 708 0880	シンガポール 800 448 1430	香港 852 3002 1362
インド +91 22 3987 8888	マレーシア 1 800 812 678	タイ 001 800 441 6039	台湾 0800 666 052



[@redhatjapan](http://facebook.com/redhatjapan)
linkedin.com/company/red-hat